

# イチ おおいた市推しショット!!

ぼーっとしているおサルさん🐒  
なにか考え事でもしているのでしょうか？  
人間のような哀愁漂う姿に、思わず笑ってしまいました😅  
高崎山自然動物園ではサルのかわいい姿だけでなく、  
こうしたおもしろおかしい姿も見ることができます🐒  
個性的なサルがたくさんいるので、  
よく観察してみても楽しいですよ🐒❤️  
ちなみに、来年開園70周年を迎える高崎山自然動物園では、  
毎週土曜日にイベントを開催中！  
常連さんも、「最近行ってないなあ」という人も！  
この機会にぜひお越しください🐒



市公式 SNS では、旬な情報を発信中！  
市公式 SNS はこちら▲



# わが家のおかずに！ おおいた香り野菜レシピ



## せりご飯



**【産地情報】**  
水耕栽培で生産され、やわらかく苦みが少ないのが特徴です。松岡、高田、戸次地区を中心に2haの面積で年間約131t生産されており、水耕栽培としてのせりの出荷量は全国1位です。  
主に、関東・関西方面に出荷されています。  
※3年度実績

- 材料
- |     |      |      |      |
|-----|------|------|------|
| ご飯  | 3合分  | 薄口醤油 | 大さじ1 |
| せり  | 1束   | 塩    | 小さじ1 |
| ごま油 | 大さじ2 | いりごま | 大さじ3 |

- 作り方
- ① せりは根元を落としてよく洗い、沸騰したお湯でサッと茹でて水にあげ、水気を絞り1～2cmの長さに切ります。
  - ② フライパンにごま油を入れ、①のせりを軽く炒めたら火を止めます。
  - ③ ②に薄口醤油・塩を入れて味をつけ、仕上げにいりごまを混ぜます。
  - ④ 大きめのボウルに炊いたご飯を入れ、③のせりをよく混ぜて完成です。

LOVEおおいた産クッキング

大分市公式動画チャンネルでは、  
その他のレシピも公開中！▶

レシピ提供者：楊志館高等学校 調理科  
農政課 ☎537-7025

### 市民図書館からのお知らせ

- ①おはなしを届けるための講座 **無料**  
●紙芝居の魅力と演じ方 11月13日(日)  
●大人がともに楽しむ紙芝居 11月27日(日)  
時 間：午前10時～ 2時間程度  
場 所：J:COM ホルトホール大分2階 201会議室  
定 員：30人(先着順)  
講 師：川谷 純子氏
- ②マイブック **無料**  
本の手作りイベント  
日 時：11月19日(土) 午前10時～正午  
場 所：市民図書館2階 会議室  
定 員：20人(先着順)  
対 象：中学生以上(保護者同伴で小学5、6年生も可)
- ③クリスマスブックツリー **無料**  
市民図書館内に設置したクリスマスツリーに  
おすすめの本を記入したカードを飾り付けま  
しょう。  
設置期間：11月25日(金)～12月25日(日)  
※11月28日(月)、12月12日(月)は休館日
- ①②の申込み  
直接または電話で、11月1日(火)から市民図書館へ。

市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している  
新刊を紹介します。



**こうもり**  
アヤ井アキコ：作  
借成社  
怖くて不気味に思われるこうもりですが、実は私たちのとても身近にいる生き物だと知っていますか。冬眠や超音波などこうもりの不思議な生態を、ほのぼのとしたかわいらしい絵で描いた絵本です。読むとこうもりのイメージが変わります。

### ソノヨン一直線

ソノヨン  
金成妍：語り手 鶴丸哲雄：聞き書き  
集広舎

玖珠町の久留島武彦記念館の初代館長に就任したソノヨンさん。韓国からやってきた留学生がなぜ、日本のアンデルセン、久留島武彦の研究者となったのか。本物を求め、一直線に突き進む彼女の生き方は、多くの人の共感を呼びます。



### 人権・同和教育シリーズ 527

**人の生き方を考える**  
変わらなければならぬのは：  
数年前のことです。わたしの部下から「実は、今年も管理職試験を受ける女性が少ないんです。女性の活躍を推進したいんですけど…。当の女性が積極的じゃないんですよ」と相談をされたのです。わたしは過去の経験を引き合いに出し「そうだよな。前の部署でもテキパキと仕事をこなす女性社員に『管理職試験を受けてみないか？』と声を掛けたら『わたしには無理です』って断られたよ。管理職試験は男女関係なく受けることができるのになあ。こっちも男性と女性を区別しているつもりはないんだけどな」とため息交じりに答えました。  
それから数日後、残業でかなり遅くに帰宅すると、妻がリビングに居たので「どうしたの？」と聞くと、妻が「ちょっと相談があるんだけど」と話を切り出し「実は、今勤めているお店の店長にならないかって言われているの。もちろん、待遇はよくなるけど、残業もあるみたい。やっぱり断つ方がいいかな？」と言うのです。わたしは、思わず「うん。家のこともあるし、子どももまだ小さいんだから。無理することないと思うよ」と答えました。  
翌日、何かモヤモヤした気持ちで出勤すると、仲のいい同僚が「どうした？元氣なさそうだな」と声を掛けてきたので、妻の相談について話すと、同僚が「この間、女性が管理職を希望しないで困っているって愚痴を言ってたよな。でもそれって女性に原因があるのか？ほら自分だって店長はやめとけて。家事や育児は女性が積極的にすべきだって考えがあるんじゃないかな？」と。同僚の言葉を聞きながら、昔、妻が自分のお店を持ちたいと夢を語っていたのを思い出しました。  
わたしは、こうした出来事によって、変わらなければならぬのは自分の方だとやっと気付くことができました。今では、女性が活躍できる会社の環境づくりに取り組んでいます。そして、妻も店長として生き生きと働いています。  
わたしたちは、つい「男性だから」「女性だから」と固定観念にとらわれることがありませんか？性別に関わらず、すべての人が自分らしい人生を送れることが大切ではないでしょうか。